
悪の鳥が照らす光明真言

剣杖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪の鳥が照らす光明真言

【Nコード】

N9418Z

【作者名】

剣杖

【あらすじ】

ただの一人の男が知らずのうちに転生し悪で有れと呪われた存在になった。

これは永劫回帰の世界で光明を照らす鳥の物語。

(前書き)

別作品を書かないで書いた作品です。
ちよつとした練習に書いてみました。

いた事を、光を掴んだ瞬間気を失った。

「此処は何処だ」

俺は目を覚ますとさっきの場所とは違いなにもない真っ白く明るい場所にいた。

「目が覚めたか？ よ気分はどうかね」

「え？あ、あなたは、だれ、ですか？」

後ろから突然声が聞こえ振り向くと、そこには善悪分け隔てなく照らす光明で輝き、全てを超越した存在がいた。そして俺はこの存在がああ場所で俺を照らした光明なのだと思自然に悟った。

「私の名は智慧なる神アフラ・マスター。 よ申し訳なかつた」

「え？何であなたが謝るんですか。そ、それに神様！？あと俺の名前が聞こえなかったってあれ？俺の名前は何だっけ？」

あれ？さっきまで覚えていたはずなのに。くそっ思い出せねえ、どうしてだ。

「落ち着きたまえ、一つずつ話して行こう」

「はい分かりました」

神様に言われ何とか落ち着いた俺は、神様の話を聞いていく事にした。

「まず、君が転生した理由は分からない。輪廻の輪になんらかの影響があったのかもしれないし、はたまたただの偶然かまあ今となつては余り意味が無いのでここまでにして。」

次ぎに私が謝罪した理由だが私を信仰している信者達に君が悪で有れと呪われてしまったからだ。これは本当にすまなかった。」

「いえ、過ぎてしまったことなどで」

それにこれは信者のせいで、神様のせいでは無から、俺に怒る権利はないと思うし。」

「ふむそうか、ありがとうでは次だ。何故君が名を忘れたかと言うと歪んだ方法でこの世界に来たからだ」

「歪んだ方法？」

「ああ、この世界は無限に広がる世界を調整、管理する神の世界なのだ、たまに神のミスや輪廻の異常で人間が来たりするが魂は通常のままだ。」

君の場合はあの世界で悪に染められても、魂の色は黒く白いと言う矛盾した存在だから、ここに来たとき名を忘れてしまったのだ」

ああ大体わかったが、一つわからないことがある。何故そんな矛盾した魂だったのか。

「ああそれは「心読まれた!？」ふふ、神にとって必須Skillだ」

ああそうですか……。発音良いですね。

「ふむ、それで理由だが簡単に言えば異常なまでの精神の強さだ」

「精神の強さ?」

「ああ君は、人より異常な精神力の持ち主だ。普通の人間なら手足を切られて焼き殺される時点で精神が崩壊するだろう。しかし君は発狂すらしないと。さすがの私でも驚愕するよ。

しかもこの世全ての悪となったというのに普通にいられるとは、称賛に値する。」

へえ〜そんなにすごいのか……。って!この世全ての悪になった!?

「この世全ての悪になったってどういう事ですか!」

「ああそれが、Fateのアヴェンジャーと同じいやそれ以上の存在に成ったのだ。

更にいえば、この世界に来るときに霸道神と成った」

「は、はいいいいっ!?!アヴェンジャー!?!しかも霸道神ってDies irae!?!」

それってチートを超えて反則だろ……。でも霸道神?

「ああそうだ、これで伝える事は全て言ったな。ではこれより君を送ろう」

「送る？何処にですか！？」

「ああ君を転生させるという事だ、まあ所謂テンプレだ次の世界で楽しく生きてくれ」

そう神様が言うつと神様の横に扉が現れた。テンプレって結構俗っぽいね神様……。

「では、この扉を開ければ新たな世界だ。さあ行くのだ よ新たな祝福の天地へ」

「はい。ありがとうございます。俺を照らしてくれて感謝します」

俺は神様 アフラ・マスター に最大級の感謝をしながら扉を開けた。

「ああそうだ、 よお前は何を想って行く？」

何を想うか？そんなの考えるまでもない、あの世界だったら永劫呪詛に塗れて自分はただの特異点として独りだった。そんな俺を神様は外へ導いてくれた。だから俺は

「 あなたの光明が美しいと想ったから、あなたに憧れたから。俺も誰かに光明を照らしたいそれが俺の渴望（想い）だ」

俺は神様の目を見てはつきりと答えた、これが俺の渴望だと。 呪

いの塊な俺を光で割り流れ出させた、求道から霸道に変えた渴望だ
と。

「クッククククツッ！ハッハハハハハ！いいぞ！面白いぞその
渴望！悪でありながら峻別の光を照らそうとは！ああそつだお前に
名を与えよう！《ザラスシュトラ》それが新たなお前の名だ！」

あまりのうれしさに前が涙で見えなくなった。名を貰えるという
事がこんなにうれしいとは思わなかった。

「はい。あ、りがと、う、ご、ざ、い、ま、ず。」

「では行け！お前が行くのは永劫に回帰する蛇の世界だ。」

俺は泣きながら神様にお礼をいい、新しい世界の扉に入って行っ
た。

そして、峻別する者の旅は始まった。

「あなたは何故この世界に来た」

未知を求める蛇は峻別する鳥に問う。

「何故かだつて？まあ誰かに光明を照らしたいからだ。何ならあんなを照らしてやるか？」

「面白い、私にそのような事を問い掛けたのはあなたが初めてだ。あなたという未知はこの回帰に何をもたらすか。……ああ今宵の喜劇はとても楽しそうだ」

鳥の答えに蛇は歓喜する

「クックック、ラインハルトお前は全てを愛していると言ったが、^{オレ}悪は愛せるか」

峻別の鳥は黄金の獣に問う。

「愚問だザラスシュトラ、私は全てを愛しているのだこの世の悪くらい愛せるさ」

そして黄金は盟友に当然と答える。

そして未知を求めた先で、水銀の蛇、黄金の獣、峻別の鳥の三つ巴の戦いが開幕する。

「お前らはもう要らんど、ハイドリヒ、ザラシュトラ
特異点を生じさせ、私を滅ぼす一翼を担った。ああ、褒めたたえよう。」

だがそこまでだ。これより先は女神の独り舞台でなくてはならぬ。
用済みの役者達には退場願おう

それが私の “座” の意志と知れ。」

「ようやく見せたな、真の顔を。ああ、初めて卿が同じ所に降りてきたとを感じるよ」

「ああ、ようやくお前に光明を照らせる。劇には光りが必要だろう、ならば俺が照らしてやるよ」

怒りの日

Dies irae

未知の結末を見る

Acta est Fabula

峻別する光明

Xordah Avest

そしてここから、光明真言を唱える鳥の旅が始まる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9418z/>

悪の鳥が照らす光明真言

2011年12月29日14時48分発行